様式４

令和６年度　福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2024 年　11 月　19 日

学　長　　殿

所属部局・職名　共生システム理工学研究科
（所属・学年）　博士前期課程 1 年

申　請　者　名　　脇　駿介
（学会参加助成の場合は参加者名）

助成の区分 (該当するものに〇)	学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事業名	日本騒音制御工学会　2024 年秋季研究発表会 (https://www.ince-j.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/09/2024autumn_program_ince-j_240920.pdf)
成果の概要	「絵文字を用いたサウンドスケープの Affective Quality の評価(2)：単極 5 段階評価と Check-All-That-Apply 法の比較」と題して，サウンドスケープの Affective Quality を，絵文字を用いた単極 5 段階評価と Check-All-That-Apply 法，さらに言語尺度である日本語版 PAQS で評価し，絵文字を用いる場合どちらの方法が適切かを検討し発表した。昨年度，同研究発表会にて発表した成果の続きのプロジェクトである。 質疑およびフリーディスカッションタイムにて,「子どもへの適用を目指す研究で，現在は大学生での比較のみだが，他年代では評価に差が出るのではないか」,「言語尺度の方が綺麗な結果が出ているため，言語尺度の方が良いのではないか」,「一度も選択されなかった絵文字はあるのか」,「今後，国際比較を行う予定はあるのか」,「今回の結果を踏まえて，2 次元の評価尺度を製作すると良い」などの指摘を受けた。